

再処理工場って何が危険なの？

～六ヶ所再処理工場の本格稼働を阻止し
放射能汚染を考える全国ネットワークの取り組み報告～



六ヶ所再処理工場

豊かな自然、安心・安全な食べものを放射能から守るために昨年7月に立ち上がった全国組織が、「六ヶ所再処理工場に反対し放射能汚染を阻止する全国ネットワーク」(以下阻止ネット)です。グリーンコープもその一員として、阻止ネットの運動に参画しています。

再処理工場のアクティブ試験(試運転)は現在最終段階となっており、5月末には本格稼働が予定されています。これまでに見えてきた再処理工場の問題点を探ります。



国会議員と共に再処理問題を考える

阻止ネットを組織する団体は、この運動は単なる反対運動に終わらせてはいけないうし、市民にはもちろん広く国会議員への理解を呼びかけています。再処理工場を稼働させることは、国のエネルギー政策にもかかわることであり、政治的な判断が不可欠だからです。この間、阻止ネットの呼びかけに賛同してくれた衆・参議員と共に再処理問題を考える院内集会を2回(1/28、3/12)開催しました。

放射能汚染の実態

再処理工場は、核燃料サイクルの中核的な施設として、構想から15年、今年5

月に操業開始することになっていきます。アクティブ試験がはじまった2006年4月頃から空や海、大地に放射能が放出されはじめ、現在も続いているのです。これまで原発関係者や国は、「原発は放射能が外部に漏れないよう5重の壁構造にしている。だから安全だ」と主張してきました。しかし、再処理工場の場合はそのような壁はなく放射能が外部に出ることが前提となっています。

例えば、使用済み燃料棒を剪断し硝酸で溶融する際、クリプトン85やトリウム、炭素14、ヨウ素131などの気体は大気中に、全工程で排出される放射性廃液は海洋中に放出されます。本格稼働した際の地域環境への放出量が(表1)のように算出・公開されています。これら空や海に排出された放射能が農産物や海産物

六ヶ所再処理工場から放出される主な放射性物質の問題点 (表2)

◇クリプトン85 (大気へ排出)

希ガスなので大気中に放出されると全世界に広がる。六ヶ所再処理工場からは毎年33京(1億の1億倍)ベクレル排出される。地球の表面積は約500京cm²、半分が宇宙に逃げるとしても、人の掌(約30cm²)に毎秒1個のβ線があたることになる

◇トリチウム=三重水素 (海洋と大気へ排出)

水と一緒に排出される。光合成(水と二酸化炭素から炭水化物生成)や加水分解(食べものの消化吸収)などの反応の過程で有機物にトリチウムが取り込まれる。有機物に結合したトリチウムは体内でβ線を放出して化学結合を切断する。それが遺伝子の切断やがんの発生につながる

◇炭素14 (大気へ排出)

上空で窒素ガスが宇宙線に反応してできる(自然放射能)。その濃度は炭素1gあたり0.25ベクレル。再処理工場の場合、高さ150mの排気塔から大気中に二酸化炭素と一緒に排出される。再処理工場周辺の農作物は光合成の過程で炭素14を取り込む量が炭素1gあたり0.5ベクレルと予測されている

◇プルトニウム(Pu239...海洋へ、Pu240・Pu241...大気へ)

α線という強い放射線を出す。分解しても別元素になり放射線を出し続ける。海藻への蓄積予測値は廃水放出口設置の北側13km地点で計測されているが、北向海流は15%程度。海流に沿った地点で計測した場合の数値がない。しかも数値は単年放出の影響のみとなっている。プルトニウムは海底に蓄積するので積年の影響が心配される

六ヶ所再処理工場から地域環境への放射能放出量 (表1)

放射性元素	環境排出量(Bq/年)
クリプトン-85	33京
トリチウム(H-3)	2000兆
炭素-14	52兆
ヨウ素-131	560億
ルテニウム-106	500億
ロジウム-106	500億
ヨウ素-129	130億
セシウム-137	12億
バリウム-137m	11億
ストロンチウム-90	8億
イットリウム-90	8億
プルトニウム(α)	3億
その他の核種 α線を放出する核種	0.4億
α線を放出しない核種	110億
トリチウム(H-3)	1京8000兆
ヨウ素-131	1800億
ルテニウム-106	1700億
ロジウム-106	1700億
プルトニウム-241	1200億
セシウム-137	480億
バリウム-137m	460億
ストロンチウム-90	340億
イットリウム-90	340億
ヨウ素-129	260億
セシウム-134	240億
セリウム-144	150億
プラセオジウム-144	150億
ユウロビウム-154	62億
プルトニウム(α)	45億
キュリウム(α)	37億
コバルト-60	29億
アメリカシウム(α)	13億
その他の核種 α線を放出する核種	4億
α線を放出しない核種	320億

出典 日本原燃サービス(株)再処理事業指定許可申請書(ウラン換算年間800t処理時の放出見積もり)

を汚染してしまうことが大きな問題なのです。例えば、安全性が危惧される食品添加物の場合は、表示義務があるので消費者は食べないという選択ができます。また無添加食品を作ること

も可能です。しかし、放射能汚染に関する表示義務はありません。農業や漁業に従事する生産者そして消費者に選ぶ権利は保障されています。再処理工場が持つ本当の問題点や危険性を国会議員と共有する院内集会(3/12)に、民主党・自民党・

国民の切なる願いや意見・質問を国に届けたい!

社民党・無所属から本人16人、代理16人の、衆・参議員の参加がありました。関係省庁(内閣府、経済産業省、農林水産省、厚生労働省、環境省)からは担当者ら10人の出席がありました。国会議員からは再処理工場に関する情報が極端に少ない、国民に事実が知らされていないことの問題点が指摘されました。また、すでに放射能垂れ流しがはじまっているにもかかわらず、放射能汚染から国民を守るための方策が何も取られていないことへの疑問も出されました。行政担当者からは、「人間は自然界の放射線に常に曝露されている。その量からすると再処理工場の放射能は何ら問題ない。従って方策をとる必要はない」(経産省)、「現時点では問題がないという前提で業務をすすめている」(農水省)、「原子力関係の環境調査は経産省の管轄であることが法律で定められている。環境省はバックグラウンド的なモニタリングをしている」(環境省)など、官僚的な発言に終始してしまいました。それに対し

院内集会の際、阻止ネットから、国会討議してもらうための質問を届けました。「食品への放射能汚染」「放射性廃棄物の海洋放流日時の予告」「防災対策」「地震対策」「放射能とがん対策・子どもへの影響」「再処理工場のコスト問題」など、項目は多岐にわたっています。国に質問を提出しても真摯な応答がなかったことから、今回は議員による国会質問を射程に据えています。

国民の願いや思いがどれだけ反映されるかは、5月の本格稼働までの論点整理と問題提起を踏まえ、今後の運動を準備する必要があります。